

## 地域課題解決型キャリア教育について

### 1 事業の趣旨・目的

- 高校生が地域課題や地域の特色ある産業を題材に地域住民や職業人と関わりながら主体的に課題解決に取り組むことを通じ、実社会の課題に協働して対応する力など、これからの社会で生きる力を育みます。また、生徒自身が地域の一員として、地域への魅力や誇りを高め、地元で活動する将来を思い描けることができるよう、地域を学び場とした地域課題解決型の新しいキャリア教育モデルを構築していきます。

### 2 事業の概要

- 「県立高等学校活性化計画」に基づき学校別協議会を設置している1学年3学級以下の小規模校を「地域みらいPBL※実践パイロット校」に指定し、地域と学校をつなぐ巡回型のコーディネーターを配置して、地域課題解決型キャリア教育の取組を計画的に実施しています。

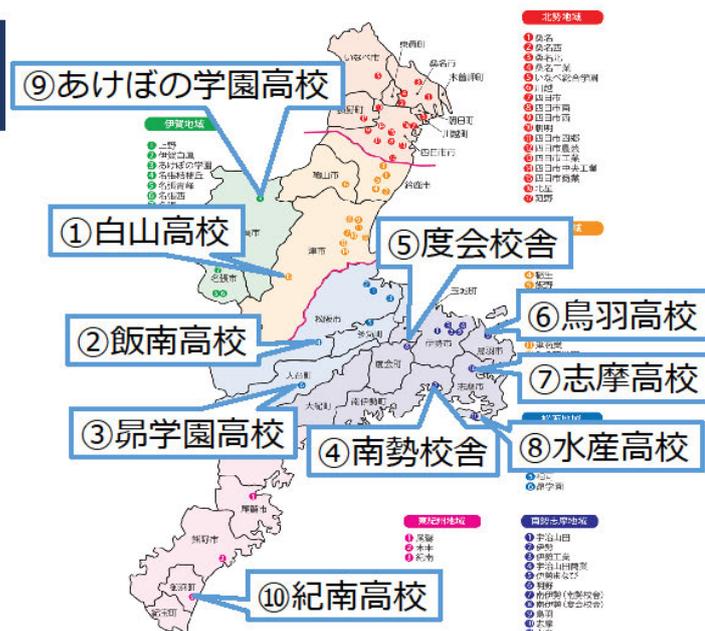
※PBL=Project Based Learning (課題解決型学習)

- 各パイロット校は、年度末に各地域で成果発表会を開催し、地域へ学習の成果を発信・PRをするとともに、成果発表会での地域からの評価等をふまえ、次年度の取組を改善します。
- 学識経験者、地域産業関係者、地域づくり関係者、県立高校関係者等による「地域課題解決型キャリア教育推進委員会」を設立し、パイロット校での実践をふまえ、学習内容、学習の進め方、そのことにより培われる生徒の資質・能力、学校と地域の関わり方等について検討し、地域課題解決型キャリア教育モデル構築につなげます。

#### 実践パイロット校

(1学年3学級以下の小規模校)

- ①白山高校
- ②飯南高校
- ③昴学園高校
- ④南伊勢高校南勢校舎
- ⑤南伊勢高校度会校舎
- ⑥鳥羽高校
- ⑦志摩高校
- ⑧水産高校
- ⑨あけぼの学園高校
- ⑩紀南高校



### 3 取組状況

#### (1) 実践パイロット校の取組

各パイロット校では、これまでも地域を題材とした学習に取り組んできましたが、その多くは単独のイベント的行事であったり、一部の生徒、教師による放課後等の活動にとどまっていた。当事業では、学校の実情に応じて、育てたい生徒の力を明確にし、取り組む対象となる学年・系列や科目を定めて、教育課程に位置づけて実施しています。生徒は、個人またはグループで、地域産業、観光、地域学など、テーマを設定し、

- ・ 地域のプロフェッショナルからの講義
- ・ 実際の現場において業務を体験
- ・ 市場調査・先進地調査の実施／それらに基づいた商品開発
- ・ 長期休業期間を利用した「三重テラス」での実験販売
- ・ 県内外の先進地において同様のテーマに取り組む高校生と交流などの学習や活動を通じて地域の課題解決に取り組んでいます。

各パイロット校の特徴的な取組は次のとおりです。

(本日生徒が発表する3校の取組についてはP 9以降を参照)

#### ○ 白山高校（津市）

2年生就職希望者全員が伝統的に取り組んできたインターンシップの際に、事前の企業調べや事後研修に主体的に取り組むことで、年間を通じた継続的な学びへ改善されました。お世話になった企業の紹介動画づくりに取り組むことで、企業の魅力やあり方について考察を深めるとともに、地域での成果発表会に向けたプレゼン演習を通じて、表現力やコミュニケーション力を育成しています。



地元企業経営者の講演



発表会に向けてのワークショップ

## ○ 昴学園高校（大台町）

1年生全員が「産業社会と人間」で地元企業の見学や地域の語り手からの講演等を通じて地域学習の基礎を学び、2年生以降の総合学科の各系列（国際交流・スポーツ・美術工芸・生活福祉・環境技術）において地域を題材とした発展的な学習につなげます。国際交流系列では、地域の課題解決策をグループで協議する「まちかつ」、環境技術系列では山林活動や林産物利用を考える学習、生活福祉系列では介護の諸問題を体験から学ぶ取組などを実施しています。



地元の大人との出会い



地元企業の見学

## ○ 南伊勢高校南勢校舎（南伊勢町）

1年生は「総合的な探究の時間」、2年生は「地域探求」や「インターンシップ」、3年生では「地域課題研究」の科目を開設して、町長から町の課題について直接話を聞くなど数多くの講演会や地域の事業者によるワークショップ、それらの事業者の仕事場でのフィールドワーク、インターンシップの実施など、地域と密着した探究活動を実践しています。



外部講師による講演（南伊勢町長）



保育園でのインターンシップ

## ○ 南伊勢高校度会校舎（度会町）

1、2年生全員が町役場の職員から講義を受け、地域の現状や課題について学習し、2年生では地域の保育所や特別支援学校、地域との交流学习やケアハウス、森林組合等での体験活動を行っています。また、南勢校舎との遠隔授業の試行を行い、小規模校においても必要な科目を受講できるとともに多様な意見に触れることができるよう研究を進めています。



地域の職業人による講話（県外からの移住者）



ケアハウス彩光 交流

## ○ 鳥羽高校（鳥羽市）

1年生全員が、答志島など鳥羽市各地へのフィールドワーク等の体験学習をはじめとした地域を題材にした学習を行っています。

また、2年生は学校設定科目である「鳥羽学」において、鳥羽市の協力を得ながら、生徒が鳥羽の魅力や課題を理解するとともに、その魅力の発信や課題の解決に取り組んでいます。海女文化を発信するため、複数の企業と連携したVR（バーチャル・リアリティー）の体験映像の制作や商店街でのフィールドワーク、インタビュー等を通じて中心市街地の活性化について考えるなど魅力発信等に取り組んでいます。



1年生フィールドワーク（答志島）



鳥羽市職員による講義

## ○ 志摩高校（志摩市）

1年生全員が「総合的な探究の時間」において、志摩市職員からレクチャーを受け地域の現状と課題、魅力について学んだのち、興味関心がある課題についてグループでテーマを設定し、フィールドワーク等を通じてその現状を体感し、解決策について話し合う活動を行っています。また、2年生ではさらにインターンシップを実施して地域や地域の産業について研究を進めています。



1年フィールドワーク



2年インターンシップ

## ○ 水産高校（志摩市）

水産高校の専門性を活かし、3年生の「課題研究」において地域の題材や課題解決に向けて学習活動を進めています。水産資源科においては地元企業と協働し、伊勢マグロの廃棄部位の有効活用の研究を進めました。海洋・機関科では、地元海女さんへの聞き取りから、海女さんが漁で使用する「磯ノミ」を作成・改良するとともに、マリンロボット（水中ドローン）の研究をすすめ全国コンテストでも準優勝となりました。



全国マリンロボットコンテストでの発表



地元海女さんとの意見交換

## (2) 学校と地域をつなぐコーディネーターの役割

地元住民や職業人とより深く関わる学習活動を実施するために、地域と学校とをつなぐ「地域みらいコーディネーター」を配置して実践パイロット校を支援しています。コーディネーターは各校を分担して巡回し、各校と地域をつなぎながら多様な役割を果たしています。県教育委員会教育政策課とコーディネーターとが定期的に連絡会議を開催し、事業の進捗を図りながら改善につなげるための情報共有を行います。（※コーディネーター業務は、一般社団法人 未来の大人応援プロジェクトに委託）

## (3) 地域みらいPBL会議の実施

一連の取組のキックオフ集会として6月9日（日）に三重県立美術館講堂で開催しました。高校生、教職員、地域関係者等108人が参加し、高校生による実践パイロット校の紹介や、東京大学教授の鈴木寛氏による基調講演、高校生・大学生が参加するパネルディスカッションを通じて情報共有や意見交換等を行いました。



集合写真



パネルディスカッション

## (4) 地域課題解決型キャリア教育推進委員会

第1回の委員会（5/24）では、高校生が地域課題に取り組むことの意義、本事業で目指すキャリア教育に必要なこと、地域を学びの場とした主体的な学び等について協議しました。また、第2回の委員会（11/18）では、半年間の取組を振り返り、当該事業を進めるうえでの課題や今後の方向性について意見交換等を行いました。年度末には第3回の委員会を開催し、地域課題解決型キャリア教育モデル案の検討を行う予定です。

（委員会での主な意見）

- ・ 学校が枠をはめ過ぎると、生徒たちの「自ら伸びる力」の育成を阻害することになる。当事業では地域を生かして生き生きと生きる大人の姿を生徒たちに見せつけて、生徒自らの伸びる力を刺激することが大切である。

- ・ キャリア教育は学校の教育活動であるので、学習指導要領に立脚した議論が必要である。また、地域課題解決型キャリア教育は地域での体験が伴うため、小規模校のメリットを生かした教育ができる。
- ・ 地域課題解決型キャリア教育は、新しい学習指導要領で示されている高校改革の核心を成す。全国で同様の取組が始まっているが、スムーズなコーディネーターの配置など三重県の取組はうまくいっている。

#### (5) 県外への魅力発信

(一般社団法人) 地域・教育魅力化プラットフォームが主催する地域の小規模校で学ぶ魅力を紹介するイベント「地域みらい留学フェスタ」に昴学園高等学校が参加し、東京(6/29)、名古屋(6/30)、大阪(6/23)の3会場で学校のPR活動を行い、計35組70名が昴学園高校のブースを訪れました。

#### (6) 第4回全国高校生SBP交流フェアへの参加

(一般社団法人) 未来の大人応援プロジェクト実行委員会が主催する第4回全国高校生SBP交流フェア(伊勢市で開催)が夏季休業中(8/23,24)に開催され、実践パイロット校6校より20名の生徒が参加し、地域資源を生かした課題解決型のプロジェクト学習に意欲的に取り組む全国から集まった生徒と交流しました。

#### (7) 2019 高校生地域創造サミットへの参加

今年で3回目となる高校生地域創造サミットが令和元年12月26日(木)～27日(金)に紀北町の東長島公民館で開催されます。実践パイロット校を含む県内(県立23校、私立5校)および県外(3校)の高校生77人に加え、今回は大学生サポーター10人も参加し、紀北町の地域課題を題材として、町内の9カ所のフィールドワークや他県、他地域の高校生とのディスカッションを行い、高校生ならではの地域を活かした解決策を考えます。

#### ・ 過去の開催

第1回 H29/12/27～28 南伊勢町(南伊勢町役場南勢庁舎：うみぼうず)

第2回 H30/12/27～28 鳥羽市(鳥羽高校：彩花亭)



昨年度サミットの様子

#### 4 これから

各パイロット校では、これまで地域で学んだことや地域課題の解決策等をまとめ、年度末に各地域で開催される成果発表会において学習成果を報告します。発表会開催にあたっては、地域の行政、企業、住民等にも広く参加を呼びかけ、PRの場とするとともに、生の声やアンケートによるリアルタイムの評価をうける場とします。また、今年度の取組を通じて、以下の課題がみえてきました。

- ・地域を知ったり地域で体験したりする学習活動を、より生徒の主体的な課題発見や課題解決に向けた学習へ、いかに深めていくか。
- ・地域での学習活動を、より多くの生徒や教員に広げたり、教科横断的に取り組んだりして、いかに学校全体の活動にしていくか。
- ・放課後や休日が活動の中心となるのではなく、いかに教育課程内での活動にしていくか。
- ・外部の力を借りながら、いかに「生徒の社会参画」の機会を創出するか。

などが課題に挙げられます。

このような課題について、推進委員会での意見をふまえて、より生徒が地域の中で学習ができる環境づくりに取り組むとともに、それぞれの活動から生みだされた実践や工夫をもとに、地域課題解決型キャリア教育のモデル構築につなげていきます。

#### ※（参考）各パイロット校の成果発表会の予定

白山高校	12月19日（木）10：20～12：10	津市一志農村環境改善センター 多目的ホール
水産高校	1月17日（金）13：00～15：30	志摩文化会館
あけぼの学園高校	1月18日（土）終日	あやま文化センター さんさんホール
鳥羽高校	1月31日（金）午前中	鳥羽高校 多目的ホール
飯南高校	2月5日（水）午前中	飯南産業文化センター 「いいなんゼミ」発表会
南伊勢高校南勢校舎・度会校舎	※両校舎と合わせて実施	
	2月22日（土）9：00～12：00	南伊勢町町民文化会館 「2020！本気！未来！フォーラム in 南伊勢町」
紀南高校	3月6日（金）10：20～12：20	学校体育館
志摩高校	3月12日（木）午前で調整中	磯部生涯学習センター 多目的ホール
昴学園高校	3月14日（土）10：00 ごろ～	学校体育館

## 地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業 実践パイロット校（発表校）の取組について

### 紀南高校（御浜町）

2年生の学校設定科目「地域産業とみかん」の中で、地域の特産品である「みかん」の栽培から流通までの過程や、関連する産業について、体験活動を通じて体系的に学んでいます。また、夏季休業中に同じく「みかん」や「梅」などの地域資源をテーマに先進的に取り組んでいる和歌山県の高校を訪問し、商品開発等の取り組みについて交流し、理解を深めました。年度末には地域と協働して「みかん検定」を作成する予定です。今後も地元産業を題材として取組を続けていく予定です。

対象カリキュラム	2年生 21人 学校設定科目：「地域産業とみかん」
育てたい生徒の力	○紀南地域の特産品である柑橘類の栽培から流通までの過程や、その関連産業など、この地域の「みかん産業」の現状と課題についての学習を通じて地域社会の一員として活躍できる人材の育成を図る。具体的には、地域産業に関する知識をみかん産業の関係者との対話を通じて学び、コミュニケーション能力の向上を目指すとともに、学んだことから課題を発見する思考力を身につけ、その解決方法を考える課題解決能力を育成し、さらに考えたことを地域等に発信する表現力を育みたい。なお、表現力の具体的なゴールとしては「みかん検定」を地域と協働して作成するという形を想定している。
これまでの主な取組	○5/13、6/3、9/2 病虫害や品種改良について（紀南果樹研究室） 5/27 摘心作業体験等（JA育苗施設） 6/10 摘果作業体験等（御浜町農林水産課 瀬古さんのみかん畑） 8/6～7 和歌山県立神島（かしま）高校との交流 神島高校の生徒が開発した商品を販売している地域の道の駅の見学。 両校の取組を紹介し合い、意見交換会をして生徒同士の交流を実施。 紀南高校の生徒からも積極的に質問があり、今後の取組へ積極的な姿勢が見られた。 9/9 コーディネーターによるミカン検定作成のためのワークショップ 9/28 文化祭でミカン検定の試行 10/28 未来の大人プロジェクト 代表 岸川 政之さんによる講義 11/25 ミカンジュース工場の見学（七里パーク御浜町）
これからの主な予定	ミカン検定の作成にむけて検討 学習成果物（冊子）の作成 3/6 成果発表会の開催

※第4回 SBP 交流フェアに参加（8/23,24）「夜の市」でミカンジュースの販売を実施する。販売経験がなく、最初は戸惑っていたが、次第に慣れて積極的になり、無事完売し、他校生とも交流した。

※ベンチマーキング 愛媛県立川之石高等学校



果樹研究室①



果樹研究室②



JA 育苗施設



選果場見学



摘果作業



摘果作業



収穫作業①



収穫作業②



収穫作業③



神島高校との交流①



神島高校との交流②



SBP 交流フェア

「地域産業とみかん」の授業では、地域の方々を講師として招くことが多いため、ただ話を聞くだけではなく、気になったことや疑問点などを積極的に質問する姿も見られるようになってきた。未来の大人応援プロジェクトの岸川政之氏の講義の際には、普段発言する姿を見せたことがない生徒も自ら質問をしていた。また、神島高校との交流等を通じて、地域と学校の活性化のために、商品開発を行い、来年度のSBP交流フェアに出展したいという思いも抱くようになり、授業以外の時間にも、思いついた案を相談したり、商品開発をする際の費用をどうするかなどの課題も考えるようになった。

（「地域産業とみかん」選択生徒の声）

- ・ミカンの木を植えたらあとは勝手に大きくなって、みかんが取れると思っていたけど、手間と労力がかかることがわかりました。
- ・地元にとって、（みかんは）大事な資源だと思いました。私たちも「地域産業とみかん」でアイデアを出して、協力していきたいと思います。

# 飯南高校（松阪市）

※地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文科省）

1年生での「産業社会と人間」では、地域振興局職員から飯南地域の概要を学ぶとともに、地域の産業や観光資源のフィールドワーク等を通じて地域を知り、課題を見つけ解決策を考察します。2年生での「キャリアデザイン」では、地元企業でのインターンシップ等を通じて、過疎地域での企業経営等の工夫や努力、展望等について地域の大人から学びます。さらに3年生の「いいなんゼミ」では、1・2年生で学んだ知識や経験に加え更に大人の意見を自分で聞き取ったりしながら研究を深めてレポートをまとめ、「いいなんゼミ発表会」において地域の方々等に学習の成果を発信します。

対象カリキュラム	①1年生 産業社会と人間 + 各教科 ②2年生 キャリアデザイン（学校設定科目） + 各系列での学び ③3年生 いいなんゼミ（総合的な学習の時間） + 各系列での学び ※課外活動 ・道の駅コラボプロジェクト ・飯南・飯高地域の魅力発信 ・各系列、部活動で開発・制作した作品の出品、販売（抹茶ラテアートなど）
育てたい生徒の力	【育成する地域人材像】自ら考え挑戦したり、多様な価値観を持つ人々と対話・協働したりしながら、地域への愛着を持って、地域に貢献し、地域の未来を切り拓くことのできる地域に根ざした人材 ・地域に飛び出し、地域住民や職業人等、様々な立場の人々、世代を越えた人々の思いや考えを聴き取り共感しながら、コミュニケーションできる力【対話力】 ・地域の伝統文化や産業、魅力等について調べたり体験したりすることを通じて、課題や改善点を把握・整理する力【追究力】 ・自らの技術を磨き、他者とかわり合いながら、仮説を立て、地域課題の解決に向けた取組や活動を創造する力【創造力】 ・地域課題を解決するための具体的な提案や活動等を効果的に発信する力【発信力】
これまでの主な取組	①5/7 飯南飯高地域の紹介（地域の成り立ちと環境：嬉野地域振興局職員より） 5/8 夕刊みえ記者による講演（取材の仕方、課題の見つけ方） 5/14 第1回フィールドワーク ～地域を知ろう～ 6/8 第1回フィールドワークの魅力マップ展示（チャレンジデー） 中学生・地域住民など外部の方々アンケートを実施 10/23～24 第2回フィールドワーク（2日間） 場所：蓮ダム周辺、道の駅飯高駅、有間野地域周辺、有徳園、三ツ知製作所など ②5/7, 28, 6/11, 25, 9/24, 10/15, 11/5, 11/19 【社会科学入門】 松阪市の人口減少、農業、地方創生等諸問題について、大学教授からの講義等 6/9 企業見学（ニプロファーマ、万協製薬、エクセディ）【キャリア】 夏季休業中にキャリアインターンシップで各事業所へ職場体験【キャリア】 10/17 三ツ知製作所との看板製作プロジェクト【ボランティア基礎】 10/28 本校、各系列イメージキャラクター作成（ネーム募集開始） 【マーケティング】 ③7/28, 10/21 リバーサイド茶倉でのフォトコンテスト企画打ち合わせ 8/20, 10/18 課題研究へのアドバイス（名古屋大学大学院 高野雅夫教授） 9, 10月中 空き家見学と移住者インタビュー 等 ※課外活動【応援団、ボランティア部、美術部（緑茶ラテアート活動）等の活動】 ・連携中学校との地域活動、その他各系列、部活動等に関する活動 ・第4回みえSDGsフォーラムで発表（5/12） ・第2回全国高等学校小規模校サミット（7/30, 31 山形県立小国高等学校） 全国の小規模校の高校生が集まり、地域課題について意見交換 ・答志島サステイナブルキャンプ（8/26～27） 榛原高校（静岡）の生徒や大学生、地域住民とともに地域の魅力動画を作成 ・その他、多数の課外活動に参加
これからの主な予定	①フィールドワークを通じて得られた地域の魅力や面白さの発信や地域住民と対話をしながら発見した課題について解決策を提案 12/17 第2回フィールドワーク発表会 2月中 地域課題解決発表会

- ②地元の起業家・企業人との懇談や、過疎地域での仕事・生活を考察する
  - 1,2月中 プレいいなんゼミで地域に関連したテーマを考える【キャリア】
  - 2/25 研究発表会【社会科学入門】
- ③いいなんゼミでの活動等
  - 12月中 フォトコンテストの開催、空き家清掃活動
  - 1月中 地域の偉人（大谷嘉兵衛）に関する講演会【総合実習】
  - 2/5 「いいなんゼミ」発表会

※松阪市、鈴鹿大学・鈴鹿短期大学部、鈴りん探偵舎、本校で「飯南いいな～協定」を締結（6/5 於松阪市役所）  
第4回 SBP 交流フェアに参加（8/23, 24）

ベンチマーキング等……山形県立小国高等学校、愛媛県立三崎高等学校、東北芸術工科大学での研修



1年生フィールドワーク①



1年生フィールドワーク②



校内での魅力マップ展示



2年生イメージキャラクター作成



2年生看板プロジェクト



3年生いいなんゼミ



全国高校小規模校サミット



答志島サスティナブルキャンプ



木の手帳

1学年全員が「産業社会と人間」で参加したフィールドワークでは、地域住民や行政、企業の方との対話の機会を設けたため、一軒一軒地域の住宅を回って魅力や悩み事を聞くグループや、地域の特産品について事業者と直接連絡を取って2日間追究するグループも出てくるなど、各箇所ですべての学びを主体的に深めることができた。また、生徒と同様に教員にも地域住民の生徒を温かく迎え入れる温かさや情熱が伝わり、より地域との距離が近づいた。

系列の授業では、従来から取り組んでいる高大連携授業や地域活動に加え、新たな企業との連携をしながら地域を学ぶ活動が増加しており、1年次から地域を学び場にした活動に取り組んだ生徒たちが、今後、各教科の授業や系列の授業でさらに地域学習を進めると、「これまでの生徒たちとは違った感触が得られるのではないか」「地域のことを学ぶ意味を感覚として理解できるのではないか」という期待が湧いてきます。





1年FW（モクモク手作りファーム）



1年FW（糸伍株式会社）



1年FW（福岡醤油店）



製菓調理 SBP 交流フェア



パン試作



事前学習



美容服飾 東京研修①（三重テラス）



東京研修②（三重テラス）

地域学習や他校との交流の取り組み等が比較的短期間に集中していたため、生徒は連続的に達成感を感じたようです。今までの「やらされている」から「私たちがやっている」という主体的な考え方に変わっていく生徒たちの様子が見ることができた。さらに、最近「私ならこうしたい」と前向きに考えることができるようになってきている。

また、東京研修での三重県や伊賀市をアピールした販売体験により、生徒の地元に対する意識や自分たちが手掛けた商品への愛着がさらに強くなり、自信をもって取り組む姿勢が見られるようになった。

#### （生徒の声）

- ・伊賀のことは、住んでいて当たり前だと思っていたけれど、改めて伊賀のことを勉強してよいところだと思った。
- ・どんな仕事にもやりがい、プロの考え方ややり方があると気づいた。自分は今まで美容師にしか興味がなかったが、話を聞いてディーラーや作る側にも興味がわいた。
- ・大切なのは、自分達の町でつくったものを自分達で消費することだと知った。お客さんとのコミュニケーションも大変で、今やってることはすごいなって思いました。